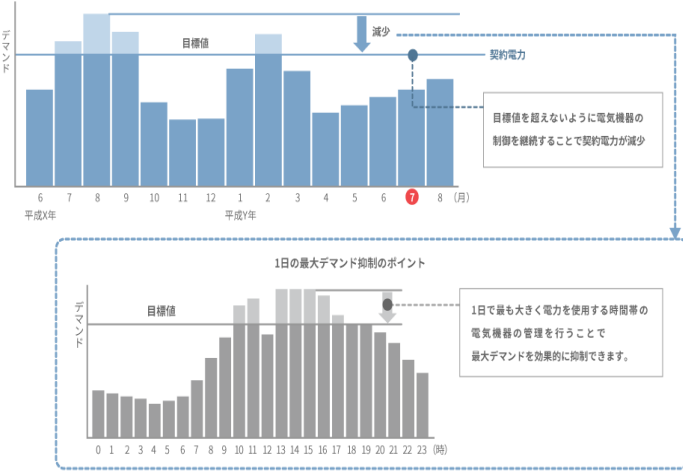


8 その他

番号	対策の名称
⑧	デマンドコントロールによる消費電力の調整
内容	デマンドコントロールとは、デマンド値（最大需要電力）の監視及び調整を行うことで、消費電力量を一定の値以下に抑える仕組みです。 監視対象となるデマンド値は30分単位で計算され、年間で最も大きい値が基本電力料金に適用されます。また、年間で一度でも契約電力を超えるデマンド値が見られた場合、翌年にはその最大デマンド値での契約となります。 そのため、契約電力を超過しないようデマンド値を監視することが重要となります。なお、実際に超過しそうになった際には、設備の稼働状況の緩和や停止等の調整が必要となるため、事前に以下の内容を準備しておくことを推奨します。 ・消費電力を調整する基準となる、デマンド目標値を設定する ・主要設備をリスト化し、定格消費電力や負荷率、台数等を整理する ・リストを基に関係者と協議し、停止設備の優先順位を設定する ・設備停止による周囲への影響を考慮し、影響が大きい設備は調整対象外とする  デマンドの抑制について (TEPCO web サイトより引用) https://www.tepco.co.jp/ep/corporate/savingenergy_c/demand_control.html
効果	一般的に、電力の基本料金は「基本料金単価×契約電力×力率割引」の式で求められます。デマンドコントロールを行うことで、契約電力の抑制や、関連設備の使用抑制によるCO2排出量の削減等につなげることができます。
ポイント	・予め設定する優先順位や調整対象が適切でないと、本来調整すべきではない設備等まで電力調整を行ってしまい、悪影響を及ぼす恐れがあります。 ・消費電力の調整には、関連設備を停止する方法のほかに、稼働状況を緩和する方法もあります。空調設備の温度設定などがこの緩和の方法に当たります。 なお、緩和による調整は、業務への直接的な影響は小さいものの労働環境の悪化につながる可能性も大きいいため、注意が必要です。